

「トラスト運動」のウエーブ

兎 老 児

最近、「トラスト」という言葉を聞いたり、目にしたりするものが多くなりました。

「トラスト運動」あるいは「ナショナル・トラスト運動」は、遠くイギリスなどのヨーロッパ諸国に端を発した運動だとされています。一九八〇年代から九〇年代初めに日本で巻き起こったのは、「ダム建設」や「ゴルフ場建設」による土地の乱開発、その結果として起こる森林伐採や自然破壊に対抗する住民運動でした。

トラスト Trust という言葉の意味する「信託」と名付けられたこのシステムは、人々の環境保全や既に破壊された環境の修復・再生への切なる願い（希求）を、その片方の当事者（地権者、立木の持ち主など）に対して、善意の第三者が金銭等の支援をすることによって、結果として開発行為をストップさせるというのがその典型的な事例ということが出来ましよう。

わが北海道では、一九七七年に斜里町で、開拓離農跡地の買い取り運動から始まった「しれとこ」一〇〇平方メートル運動の「森トラスト」は、一五年の運動の歴史を持っています。

さて、最近の「トラスト運動」の特徴は、「遺伝子組み替え作物」や「GM作物」に対する反対運動や地球生態系破壊につながるような工業テクノロジーに対抗する運動、例えば化石エネルギー

ギーや原子力による発電に対置するものとしての「太陽光や風力発電」を支援する「太陽光トラスト」や「風トラスト」が挙げられます。

農業分野では、府県中心ですが「棚田トラスト」が良く知られています。水田の持つ様々な機能、ふるさとの景観保持などにかける人々の思いが伝わって来ます。

北海道での農業分野では、空知管内を中心に都市と農村の交流促進活動などに取り組んでいる民間非営利団体（NPO）法人の「北海道B&B協会」が、農家と消費者の相互信頼システム「アグリトラスト」を、七月に設立しました。

遊休農地を新規就農希望の研修生に耕作させて生産した安全な農産物を、都会の出資者に還元するという仕組みのものです。耕作放棄につながりかねない遊休農地の保全と安全な食料生産、担い手確保の三つの目的を同時に満たす狙いの仕組みで、このような「トラスト」は、全国にもあまり例がないユニークなものと言えましょう。

協会では、このシステムを全道に広げたいとしており、成功すれば、道内の農業を活性化させる有力な手段になる可能性を秘めたものとして注目を集めています。

「アグリトラスト」では、担い手不足に悩む農家の遊休農地を、新規就農を希望する研修生に貸付、その農家の指導を受けて耕

作します。一方、これを支援する消費者は「トラスト」の基金に10年間5万円を信託、研修生が生産した5万円相当の農産物（米なら約150キロ相当）を受け取ります。消費者が信託した5万円は研修生に支払われ、研修生はうち2万円を農家に技術指導料として支払います。

このような消費者を100人程度確保すると、研修生は年間300万円の収入を、農家は200万円の副収入を得られるとしています。このシステムで100人の消費者が約2・5畝の農地を守り支えることとなります。すでに東京と名古屋の消費者100人と空知管内の農家2戸が提携することが決まっているそうです。また、双方の交流の一環として、農村での援農や収穫祭への参加はむろんのことですが、災害時の避難先としても考えているとのこと。今後の展開が期待されます。

その他、石狩圏を中心に「大豆トラスト」や「小麦トラスト」がスタート、活動を展開しています。農業・農村と都市をつなぐ新しい動きとして注目するとともに、積極的にこの運動に参画しましょう。

過大な負担を伴うものではありませんから、一人一人が「善意の第三者」になれるのです。あなたの身近に、あなたの「信託」を待っている「トラスト」はありませんか？